

武庫川水系河川整備計画（案）に関するパブリック・コメント手続の結果概要

1. 実施期間

平成 22 年 10 月 12 日（火）～ 11 月 1 日（月） < 3 週間 >

2. 意見等の提出者数

50 人と 3 団体の 53 者

3. 意見総数

202 件

※これ以外に、西紀ダムや金出地ダム、与布土ダムなどに関する、武庫川に関係のない意見が 2 件あった。

4. 主な結果

(1) 計画全体を否定する意見はなく、内容を評価する意見が 3 割あった。

(16 者 / 53 者 = 30%)

(2) 基本方針の目標流量の削除など、部分修正を求める意見はあったが、正しい理解を得るには必要な記述であることなどから、河川整備計画(案)の修正は行わなかった。

(3) この他、堤防強化など、河川整備計画(案)の早期実現を求める意見があった。

5. ダムに関する意見

53 者中、32 者からダムに関する意見があった。

ダム建設反対 22 者

ダム建設も必要である 10 者

6. 主な意見等の概要と県の考え方(案)

区分	主な意見等の概要	県の考え方(案)
評価	河川整備計画(案)を評価する。	—
部分修正を求めめる意見	基本方針の整備目標 4,690m ³ /s の記述が多すぎて、整備計画の目標をわかりにくくしている。整理(削除)すべき。	基本方針と整備計画の関係を誤解なく伝える必要があることから、丁寧に記述している。
	洪水調節施設の配分流量(910m ³ /s)から、将来のダムの必要性を連想させる記述は削除すべき。	指摘箇所は、現状と課題に関する記述箇所である。事実であることから、記載しておく必要がある。
	下流域の安全安心のためには新規ダム建設は必要である。	新規ダム建設等については、その必要性・実現可能性の検討を継続し、具体的な方向性が定まった場合には、計画上の取り扱いについて検討する。
	JR廃線敷(ハイキング道)の保全のため、県の積極的な関与を要望する。	現状では河川管理上必要としない。現時点で、都市公園等として整備することは考えていない。
事業促進を求めめる意見	下流域の安全安心のため、整備計画の早期実現を切望する(近年の気候変動、上流域の開発などを考えると不安である)。	下流部築堤区間の安全性向上を重視して治水対策を選定。早期かつ着実に整備効果が得られるよう事業を推進する。
	潮止堰等の撤去による、汽水域の拡大、アユが遡上する川づくり等の早期実現を期待する。	潮止堰撤去は、地下水利用者への適切な補償が前提であり、河床掘削とあわせての撤去となる。治水対策を最優先した工事工程の中で早期撤去に努める。
	早急な堤防強化、越水しても破堤しない堤防整備を求めめる。	比較的安全度の低い区間から順次堤防強化を行う。また、堤防を決壊しにくくする越水対策について検討し、可能なものから実施する。耐越水堤防については技術進展にあわせ導入を検討する。
	森林の整備と保全に努めて欲しい。	関係機関と連携しつつ、継続して森林整備・保全に努める。
	防災情報は的確かつ迅速に提供してほしい。	的確に避難等できるよう情報提供に努めている。また、市が避難対策等の施策を実施するにあたり、減災対策を進めやすいような環境整備を一層進める。
	災害時要援護者対策(移動距離の短い避難場所の確保、情報提供方法の配慮)を要望する。	災害時要援護者が円滑に避難できるよう、地区内での住民同士が助け合う取り組みの促進に努める。
	正常流量確保では不足。天然アユの生息拡大のため、豊かな流量を確保してほしい。	正常流量を確保するだけでなく、より豊かな流量の確保に取り組むこととしている。
	整備計画実現には流域連携(参画と協働)が必要。積極的かつ早急に取り組む必要がある。	参画と協働による武庫川づくりを基本とし、「地域社会と河川の良好な関係の構築」「多様な主体が取り組む武庫川づくりへの支援」「自律的な流域ネットワークとの連携」に着実に取り組む。
	フォローアップ委員会などを通じ、適宜計画を見直す柔軟な体制づくりを求めめる。	社会・経済情勢や新たな知見の蓄積等により、必要な場合は、新たに流域委員会を設けて見直しを行う。
	わかりやすく早めの情報提供に努め、住民の理解と協力を得よう進めてほしい。	ホームページ・出前講座などにより、施策や事業実施状況等の情報発信・共有に努める。個別事業については、必要に応じて地元説明会などを開催する。
その他意見	下流住民の意見をもっとくみ取るべき。	流域委員会など多くの機会を通じ聴いてきた。下流部の安全性が早期かつ着実に向上するよう努める。
	基本高水流量が過大である。	基本方針策定時に検討済み。最新の知見及びオーソライズされた技術基準に基づいており、河川審議会の評価、国の同意も得ている。過大ではなく適正な流量と考えている。
	水田貯留には協力が得られないと思う。	集落毎の意見交換等を踏まえ、課題解決策を検討し理解と協力を得た上で取り組んでいく。